

赤水著書に 説明や注釈

高萩の長久保さん

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水(1717~1801年)について長年研究を重ねる長久保源蔵さん(90)=同市赤浜=が、儒学者・新井白石(1657~1725年)の著書「古史通」を赤水が分かりやすく記した「古史通大意」の解説書を自費出版した。

「古史通大意」解説書を自費出版

古史通は、白石が古事記や日本書紀、旧事紀などを基に神話の時代から神武天皇までの日本について記し、神話として伝えられてきたことを科学的・合理的に解釈しようと試みた。神々が住む「高天原」は常陸国多珂(多賀)郡に当たり、現在の本県にあったとする記述もある。

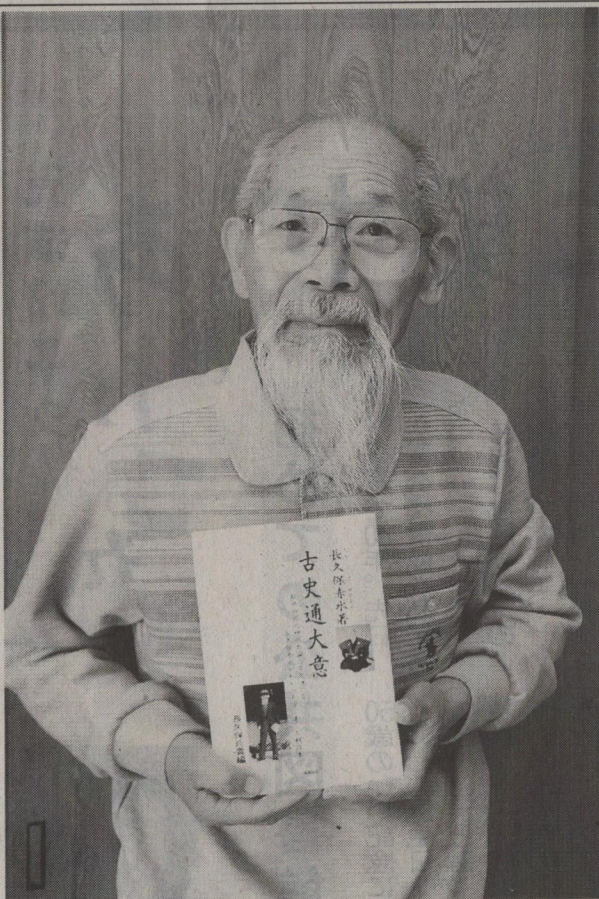
「古史通大意」

古史通の発刊から六十数年後、赤水が自分なりの研究解釈や感想を加え、分かりやすくまとめたのが「大意」だ。赤水は冒頭で白石を称賛するものの、「其の言葉シゲシ(多すぎ)」―「要(要点)を見がたし(分かりづらい)」と批判もし、「大意」を記す動機を書き留めている。

源蔵さんは「赤水は農民出身なので、実用的で分かりやすいようにという気持ちで根底にあったのだろう」と分析する。解説書では「大意」の内容に用語説明や注釈を付け加えたほか、赤水直筆の原文のコピーを載せている。赤水は「大意」の後半で古書を信じ切っている人を憂いており「誤った信用をうのみにはいけない、自分の頭で考えろ」ということを言いたかった(源蔵さん)と考えられるという。

源蔵さんは、赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されたことを記念するとともに、自身が90歳を迎えた祝いを含め出版。解説書が「赤水理解の一助になれば」と話している。解説書はA5判60頁。千円(税込)。問い合わせは長久保赤水顕彰会の佐川春久会長☎090(1846)6849。

(小原瑛平)



長久保赤水が記した「古史通大意」の解説書を出版した長久保源蔵さん=高萩市赤浜